

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年11月21日～2016年11月27日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年12月6日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼露・アブハジア共同軍の設置に関する合意の露大統領による承認(22日)

・22日、プーチン露大統領が露・アブハジア共同軍の設置に関する合意の批准を承認した。露国家院および露連邦院がそれぞれ11月2日、16日に批准を決定したものの。アブハジア「議会」は2015年12月に批准している。

・翌23日、ジョージア外務省は声明を発表し、「露連邦によるこの種の挑発的な行動は、ジョージアの被占領地域の併合を目的としたものであり、国際法の基本的な原則・規範を完全に無視するとともに、確立された国際的な秩序に反する」として批准を批判。

・米國務省報道官も言及し、「我々は有効な国際合意ではないこの『条約』の合法性を認めない」「ロシアは2008年の停戦合意で示された全ての義務を履行し、軍を紛争前の位置へ撤退させ、ジョージアの南オセチアおよびアブハジアの独立承認を撤回し、両地域への人道支援に自由なアクセスを提供せねばならない」と述べた。

2. 外 政

▼米國務次官補代理のジョージア訪問(19日-22日)

・ブリンク米國務次官補代理がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、コバヒゼ国会議長、クヴィリカシヴィリ首相代行、ジャネリゼ外相代行らと会談。

・「ク」首相代行との会談で、「ブ」米國務次官補代理は、「米・ジョージア戦略的パートナー関係は継続する。政権が民主党であるか共和党であるかに拘らず、協力関係の更なる発展に向け、米国はジョージアを強く支持している」と述べた。国防・安全保障、経済・貿易、民主制・人権、教育・文化の分野における協力など、両国の戦略的パートナー関係および地域情勢について議論。

▼英外務・英連邦省閣外大臣のジョージア訪問(24日)

・ダンカン英外務・英連邦省閣外大臣がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ首相代行、ジャネリゼ外相代行と会談し、トビリシで開催された第3回ウォードロップ対話(2014年に設立された二国間協力フォーマット)に出席。南オセチア行政境界線付近のディディ・フルヴァレティ村を視察。

・会談後の共同記者会見で「ジャ」外相代行は、両国の協力は今日から「ウォードロップ・ジョージア・英戦略

的対話」と呼ばれる新たな段階に移行すると述べた。また、「ジャ」外相代行は、英国はジョージアの民主制の発展、安全保障、国防において極めて重要な役割を担っていると強調。

・「ダ」大臣は、英国はジョージアの主権・領土一体性を支持しているとして、露・アブハジア共同軍の設置に関するロシアの決定を非難した。

・「ク」首相代行との会談では、貿易・経済関係の発展の展望に焦点を当てつつ、英国・ジョージアのパートナー関係および安全保障・国防分野での協力について議論された。「ク」首相代行は、ジョージア・英関係の最も重要な側面は危機管理に関する協力であると述べた。EU離脱に関する英国の国民投票の結果も取り上げられ、「ダ」大臣は、EU離脱はジョージアとの関係に悪影響を与えることはなく、英国はジョージアを強く支持し続けると約束した。

▼大統領のトルクメニスタン訪問(26日)

・アシガバットで開催された持続可能な物流に関する第1回国連グローバル会議に参加するためマルグヴェラシヴィリ大統領がトルクメニスタンを訪問。潘基文国連事務総長、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領らと会談。

・潘国連事務総長との会談では、ジョージアと国連の長年にわたる協力について議論。「マ」大統領は、地域および世界における平和、安定、経済的発展、人権の保護を目的としてジョージアは国連および国連機関との協力を特に重視していると述べた。「マ」大統領はジョージアの被占領地域の状況を潘国連事務総長に説明し、国際社会はジョージアの被占領地域の不承認政策を継続せねばならないと強調。潘国連事務総長は、国連は被占領地域の住民の人道問題に注目しており、状況の改善に向けてあらゆる措置をとると述べた。

・「ベ」トルクメニスタン大統領との会談では、ジョージア・トルクメニスタン間の活発な政治対話に対する相互の支持を確認し、両国の協力の展望について議論。両国のパートナー関係における大規模な地域・地域間プロジェクトの意義が強調された。「マ」大統領は、ジョージア経由でのトルクメニスタン産天然ガスの欧州への輸送の促進に対する準備を確認し、それに対し、「ベ」トルクメニスタン大統領はジョージア経由での物流量を拡大すると述べた。

3. 内 政

▼公共放送局長の辞任(21日)

・バラタシヴィリ公共放送局長が個人的な事情を理由として、任期を2年残して辞任。
・「バ」氏は2012年12月に公共放送局長に就任。2013年には理事会により2度解雇されたが、提訴し、2度とも復職した。

▼ジョージア軍統合参謀長の交代(22日)

・カパナゼ・ジョージア軍統合参謀長の任期満了を受け、22日、マルグヴェラシヴィリ大統領はチャチバニア統合参謀次長を新統合参謀長に任命。

・21日夕に行なわれた国家安全保障会議の後、イゾリア国防相代行は記者に対し、「カ」前統合参謀長は全ての目標を成功裡に達成したと述べた。また、「カ」前統合参謀長は記者に対し、今後、NATO本部駐在武官として勤務すると述べた。

▼閣僚候補者の発表(22日)

・クヴィリカシヴィリ首相候補者が閣僚候補者を発表。変更があったのはクムシシヴィリ第一副首相兼財務大臣(第一副首相兼経済・持続的発展大臣から移動)、カラゼ副首相兼エネルギー大臣(今年9月まで副首相兼エネルギー大臣)、アラヴィゼ地方発展インフラ大臣(元経済発展次官)、ガハリア経済・持続的発展大臣(元ビジネス・オンブズマン)、ドリゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣(元OSCE常駐代表)の5名。在外ジョージア人問題担当国務大臣事務室は廃止され、外務省に組み入れられる。

▼国境警察長の辞任(22日)

・2013年11月から国境警察長を兼任していたガメザルダシヴィリ内務次官が辞任。

▼外務次官の交代(24日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領はギギアゼ外務次官代官を駐デンマーク大使に任命。

・28日、マハロブリシヴィリ国連常駐代表が新たに外務次官に任命された。

▼国会による新内閣の信任(26日)

・26日夜、国会での長時間にわたる審議の後、新内閣に対する信任投票が行なわれ、賛成110名、反対19名にて、クヴィリカシヴィリ首相率いる新内閣が国会の信任を得た。野党「愛国者連合」の議員6名は審議途中で退場し、投票に参加しなかった。

▼大統領による首相の任命(27日)

・27日午前、マルグヴェラシヴィリ大統領はクヴィリカシヴィリ首相を任命する大統領令を発出。

4. 経 済

▼2016年1月～10月の貿易統計(21日)

・国家統計局が2016年1月～10月の貿易統計を発表。貿易額9,957百万ドル(前年同期比22%増)、輸出額1,701百万ドル(同7%減)、輸入額8,256百万ドル(同31%増)。

・貿易相手国の内訳はEU諸国28%、CIS諸国21%。国別では貿易額の多い順にカナダ、トルコ、ロシア、アイルランド、中国、アゼルバイジャン、ドイツ、ウクライナ、アルメニア、イタリア。

・日本との貿易高は輸出額1,921.8千ドル、輸入額156,363.8千ドル。

▼IMFチームのジョージア訪問(24日)

・11月15日から22日までIMFチームが、最近のジョージアの経済・金融分野での動きおよび政府の中期的な経済政策について技術的な議論を行なうためジョージアを訪問。クムシシヴィリ経済・持続的発展相代行らと会談。

・訪問の最後に、IMFチームは「世界的な経済成長の鈍化に対し、ジョージア経済は抵抗力を示し、当初の予想よりも遅いペースであるが、外的な衝撃からの回復を続けている。現時点では、2016年の実質GDP成長率は2.7%、平均インフレ率は2%と見込まれる。2017年には投資に助けられ、4%の経済成長が予想される。インフレ率予測は3%」との声明を発表。

▼通貨ラリの減価(25日)

・通貨ラリの減価が進み、25日、2016年1月に記録した史上最安値1米ドル=2.4985を突破し、同2.5026ラリをつけた。